

科学研究費補助金（特別推進研究）研究進捗評価結果

課題番号	17002011	研究期間	平成17年度～平成21年度
研究課題名	水素—表面反応基礎過程；スピン効果、反応ダイナミクス、及び星間水素分子の起源		
研究代表者名 (所属・職)	並木 章（九州工業大学・工学研究院・教授）		

【平成20年度 研究進捗評価結果】

該当欄	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（評価意見）

水素原子と表面の反応における基礎過程として取り上げた3つの研究課題、(1)水素原子の表面吸着過程におけるスピン効果、(2)星間水素分子の起源、(3)表面脱離分子のダイナミクス、は興味深いテーマであるが、当初目標に対して研究が大幅に遅延しており、今後一層の努力が必要である。研究分担者の異動や退職に伴う研究組織の弱体化に加えて、一部の研究分担者の寄与が不明確であり、研究体制の見直しが急務である。ポスドクを採用するなどして研究実施体制を強化するとともに、組織内の連携を密にするなど、研究代表者が組織内で強いリーダーシップを発揮することを期待する。さらに、研究遂行の軸となる複数の実験装置の開発、整備に時間を要して、いずれの装置もまだ十分な機能を発揮するに至っておらず、現象解析研究も遅れている。設計指針の見直しを含めて実験装置の早急な完成が強く望まれ、併せて目標絞り込みなどの検討も必要と思われる。研究課題と直接関係のない論文を研究成果に上げることなく、目標に向かって強力に研究を推進することを期待する。研究計画の見通しの甘さを厳しく指摘する意見もあるが、実験装置の開発で終わることなく、特別推進研究に相応しい学術上の成果を挙げて当初の研究目的を達成することを、研究代表者の奮起とともに大いに期待する。

【平成22年度 研究進捗評価結果に対する検証結果】

研究進捗評価結果どおりの成果が達成された。